トステム株式会社

ラウンドポートⅡ600形（一般地域用） 取付け説明書

MAF-699A 7-970101.②.Ⓗ

●この説明書は施工完了後、お施主様にお渡しください。

■施工される方へのお願い

⚠ 警　告

■設置条件

●建物側の屋根からの落雪による破損防止のため、落雪が製品に直接当たらない場所に取り付けてください。

●風の強い場所及び、積雪の多い場所では補強のため、補助柱（別売り品）を取り付けてください。

●サイドスクリーン取付け時には、補助柱（別売り品）を取り付けてください。

■部材の固定

●タッピンねじの下穴には、指定された下穴より太いドリルを使用しないでください。（4mmのねじに対し3.5mm、5mmのねじに対し4.5mmのドリルであけてください。）

●必ず指定の組立てねじ‥ボルトを使用してください。又、施工終了後、ねじ‥ボルトに緩みがないか再点検してください。

■施工時の足場について

●取付け時は、製品の屋根にのらないでください。

⚠ 注　意

■設置条件

●本製品は一般地域用です。積雪の多い地域には取り付けないでください。

一般地域用600形…積雪20cm以下の地域

崖の側など、風が吹き上げる場所には設置しないでください。製品が破損するおそれがあります。

■基礎について

●基礎の大きさは、指定寸法以上にしてください。

●地下埋設物（給排水管など）に影響を及ぼさないようご注意ください。

●コンクリート（またはモルタル）には海砂や急結剤は絶対に使用しないでください。アルミが腐食するおそれがあります。

●柱内の水抜きができるよう、柱基礎には必ずぐり石を敷いてください。また柱の根元にも水抜き穴（φ6）をあけてください。

●養生期間は十分（4日～1週間）とり、その間重いものをのせたり、振動させたりしないようご指示ください。

■絶縁処理について

●アルミ形材が亜鉛・ステンレス以外の金属と接触する時は、絶縁処理をしてください。

■屋根パネルについて

●屋根パネルは当社指定品をご使用ください。

■お施主様へのお願い

⚠ 警　告

●電灯線などの電線を巻き付けないでください。漏電するおそれがあります。

●積雪量が20cmになる前に必ず雪下ろしをしてください。危険です。

※雪下ろしなどの際、屋根には絶対にのらないでください。

お手入れ・問合わせ先について

【建物の立地条件と清掃回数】

●腐食・サビ防止のため、年１～２回定期的に水洗いし、空ぶきしてください。工業地帯・海岸地帯などの場合は清掃回数を増やしてください。

●清掃には布やスポンジなどの柔らかいものをご使用ください。金属製ブラシや金ベラは絶対に使用しないでください。製品の表面に傷が付き、腐食が早まります。

●中性洗剤以外使用しないでください。酸性・アルカリ性のものはアルミ表面の保護膜を侵し、サビの原因となります。

汚れの軽い場合……ぞうきんで水ぶきします。

汚れのひどい場合…薄めた中性洗剤で汚れを落とした後、洗剤が残らないよう水洗いし、空ぶきします。

著しく腐食しサビがでた場合…中性洗剤を付けたナイロンたわし又は、目の細かい紙ヤスリで部分的に軽くこすり、汚れやサビを取り除きます。水洗いして乾燥させた後、塗料のはげた部分をタッチアップ塗料やスプレー塗料で塗装してください。

※タッチアップ塗料やスプレー塗料は、色調の近い車用の補修塗料をお使ください。

●屋根パネルの取替え…古くなった屋根パネルは早めに当社指定品に取り替えてください。強風その他の衝撃を受け、破損するおそれがあります。屋根パネル端部やねじ穴周辺に亀裂が生ずる等老朽化してきた場合はただちに交換してください。

※殺虫剤や農薬をアクリルパネルの近くで散布すると、亀裂を生じるおそれがありますのでご注意ください。

●部品の取寄せ、または製品についてのお問合わせは、最寄りのトステム(株)取扱い店、またはトステム(株)営業店までお願いいたします。

交換・修理について

通常の取扱いによって生じた不具合については、原則として当社の責任において交換・補修しますが、下記の場合は責任を負いかねますので十分にご注意ください。

●当社が表示した「**■施工される方へのお願い**」及び、「**■お施主様へのお願い**」を守っていなかった場合。

●当社が表示した以上の性能を必要とする用途や個所（地域）に製品を設置した場合

●工事上の欠点があった場合

●製品に他の構成材を加えたり、又は規格外に加工して製品の形態を変えている場合

●風・雪による落下や飛来による損傷

●製品の表面に、特に塩害や大気中の砂じんやばい煙、各種金属粉、亜硫酸ガス、アンモニア、車の排気ガスなどの反応物質が付着して起こる腐食

●不可抗力（天災、地変、異常気象〔風、雪、水害など〕、地盤沈下、火災、騒乱など）による場合

●本製品は、一般地域用です。

一般地域用600形…積載荷重600N/m²（61.2kgf/m²）

又、本製品はJIS規格同等品です。強度・耐久性などの品質についてはJIS製品と変わりありません。

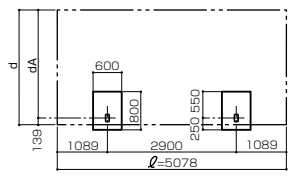
■取付け順序

1 基礎の施工

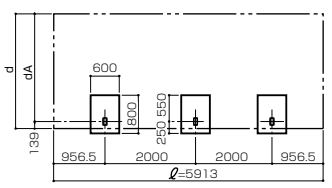
●柱埋込み位置を出し、柱基礎穴を掘り込みます。

■墨出し位置

●51サイズ



●59サイズ



サイズ呼称	d	dA
24	2427	2288
27	2733	2594

（単位:mm）

2 柱とはりの取付け

①柱にブラケット・アンカー棒を取り付け、柱基礎穴に入れます。

②（図1）の位置に後枠取付け金具を取り付け、はりをブラケットに固定します。

③はり端部キャップにシーリング材を充てんします。

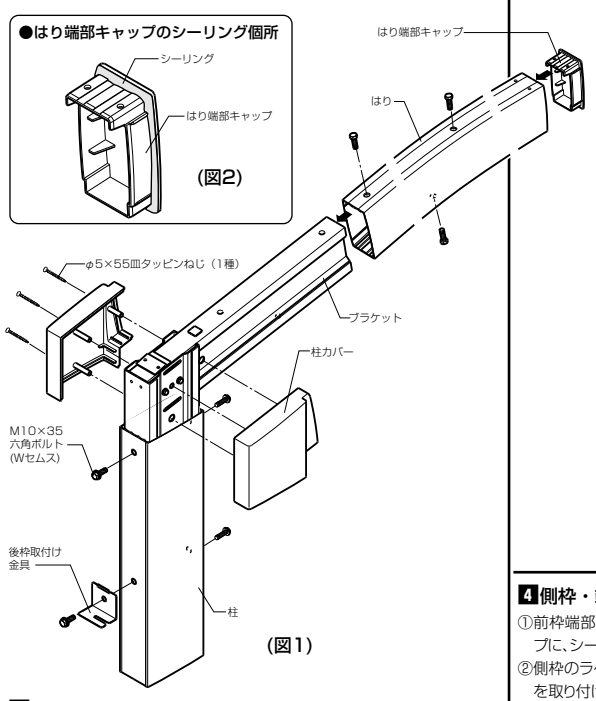
④柱カバー・はり端部キャップを取り付けます。

※はり端部キャップは、必ず、前枠より先に取り付けてください。後からでは取り付けられません。

※「**使用上の注意**」**ラベル**のある面を、縦どいセット取付け側にしないでください。ラベルが見えなくなります。

●はり端部キャップのシーリング個所

(図2)



(図1)

3 前枠・母屋・後枠・パネル押さえの取付け

①パネル押さえを後枠に取り付けます。

②後枠のボルトホールに、2本柱は2個、3本柱は3個、六角ボルトを差し込みます。

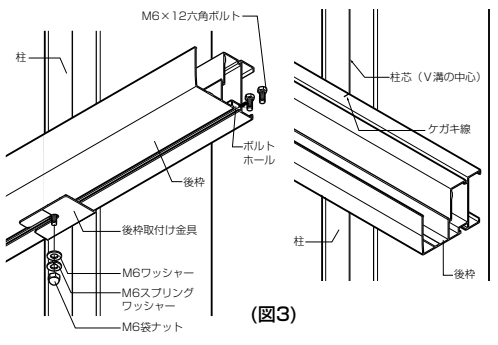
③後枠取付け金具に後枠をのせます。

④後枠のケガキ線を柱芯に合わせて六角ボルトを止めます。

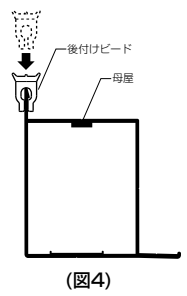
⑤母屋に後付けビードをはめ込みます。

⑥フィン部を前枠側に向け、母屋をはりに取り付けます。

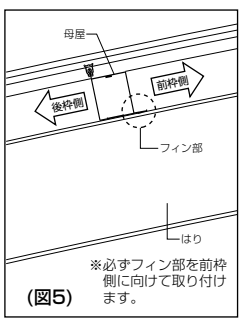
⑦前枠をはりに取り付けます。



(図3)

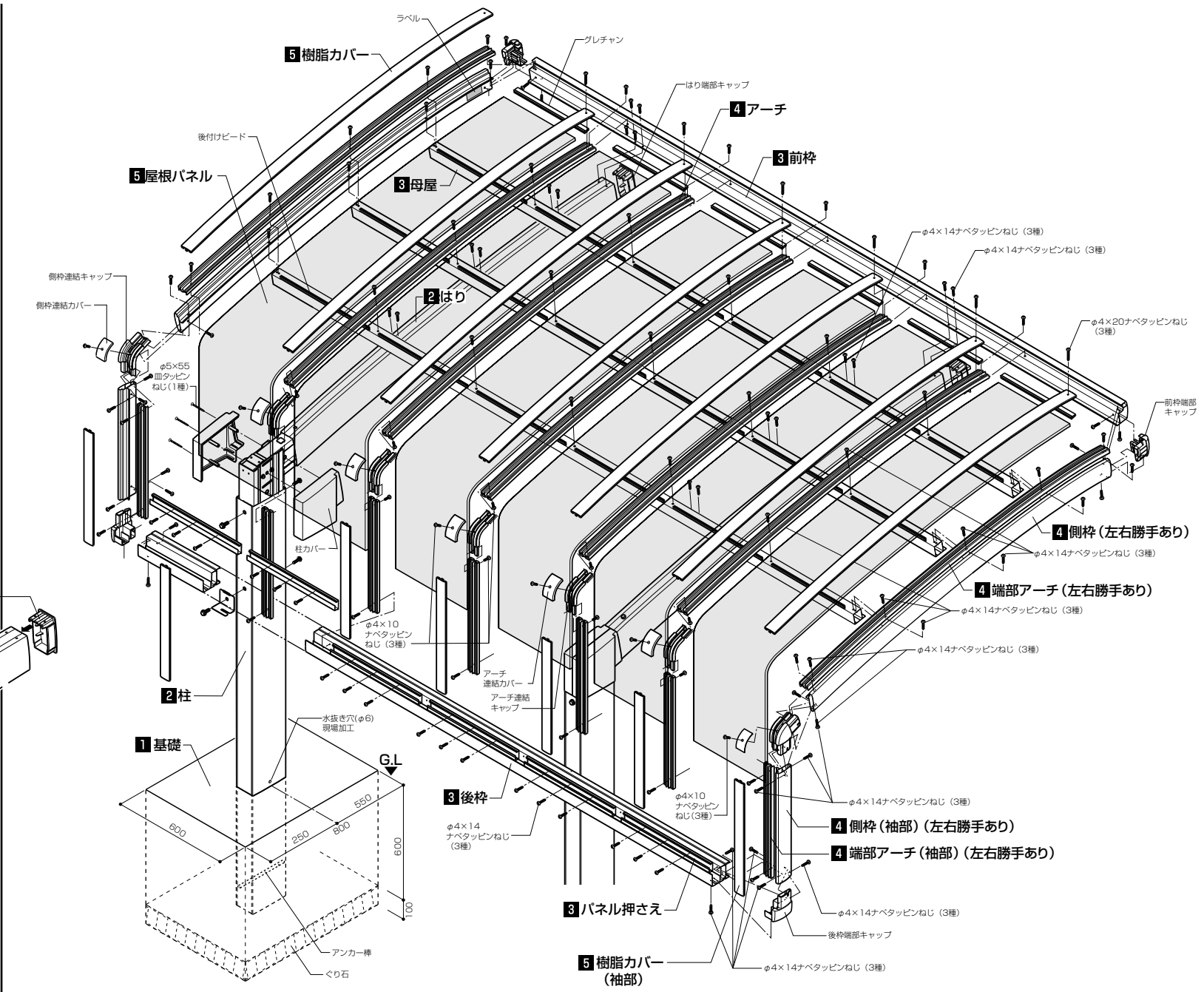


(図4)



※必ずフィン部を前枠側に向けて取り付けます。

(図5)



4 側枠・端部アーチ・アーチの取付け

①前枠端部キャップ・後枠端部キャップ・側枠連結キャップに、シーリング材を充てんします。

②側枠のラベルがある方（前枠側）に、前枠端部キャップを取り付けます。

③側枠と側枠（袖部）を、側枠連結キャップで連結します。

④側枠（袖部）の後枠側に、後枠端部キャップを取り付けます。

⑤側枠及び側枠（袖部）を前枠・母屋・後枠に取り付けます。

⑥端部アーチ及び端部アーチ（袖部）を、側枠及び側枠（袖部）の上に取り付けます。

※端部アーチには左右があります。（図7）

⑦右図の向きで、アーチを前枠と母屋に取り付けます。

⑧アーチとアーチ（袖部）をアーチ連結キャップで連結し、後枠に取り付けます。

⑨屋根枠まわりの対角・水平、柱の垂直を出します。

5 屋根パネル・樹脂カバーの取付け

①屋根パネルの前枠側にグレチャンを取り付け、水平に前枠に差し込みます。

②後枠側を、後枠のパネル押さえの透き間に差し込みます。

※屋根パネルは、樹脂カバー・樹脂カバー（袖部）に対して左右均等に(12mm)のみ込まれるように設置してください。

③屋根パネルのコーナー部をアーチ連結キャップ・側枠連結キャップに合わせながら、樹脂カバー（袖部）を上からたたき込みます。

④樹脂カバー取付け位置を確認し、樹脂カバーが斜めにカットされている方を前枠の透き間に4mm程差し込んでたたき込みます。

※必ず形材と樹脂カバー・樹脂カバー（袖部）のはめ合わせ位置が合っていることを確認してください。

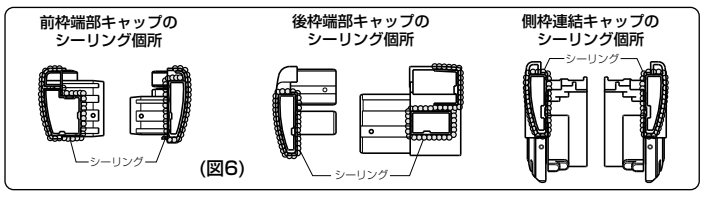
※必ず、プラスチックハンマー又は、木ハンマーを使用してください。

※一度取り外した樹脂カバーは、再度使用できませんのでご注意ください。

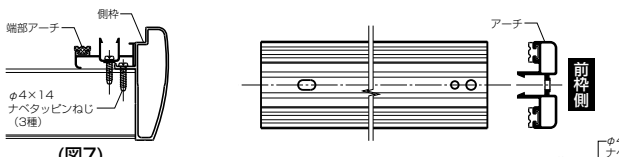
⑤後付けビード（パネル2.5mm用）を ℓ=793mmに切断し、屋根パネルを固定します。（図9）

⑥側枠連結カバー・アーチ連結カバーをそれぞれ側枠連結キャップ・アーチ連結キャップにねじ止めし、穴ふさぎシールを張り付けます。（図10）

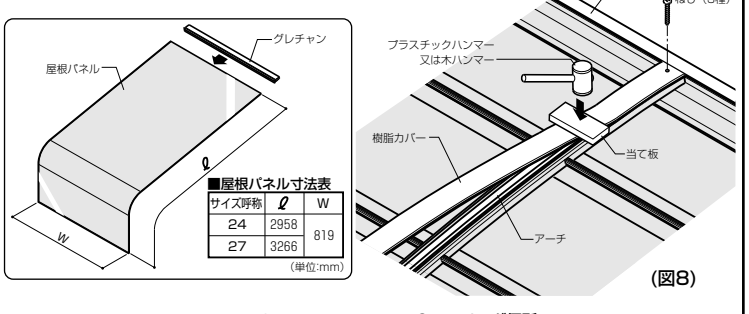
⑦前枠側の透き間に、シーリング材を充てんします。（図11）



(図6)



(図7)

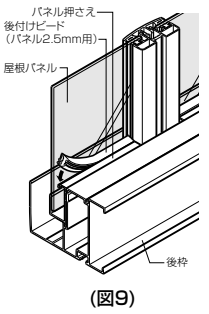


■屋根パネル寸法表

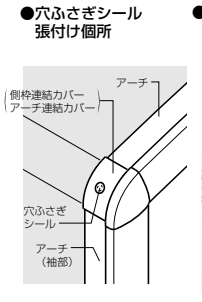
サイズ呼称	ℓ	W
24	2958	819
27	3266	

（単位:mm）

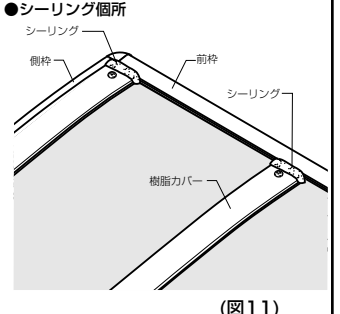
(図8)



(図9)



(図10)



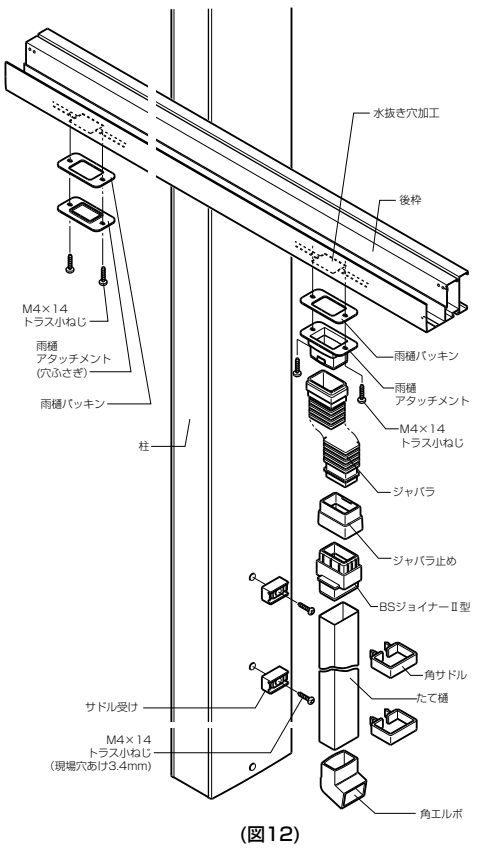
(図11)

6 縦樋セットの取付け

※後枠の両端に、水抜き穴加工がしてあります。

①片方に縦樋セットを取り付けます。

②もう一方に、雨樋アタッチメント（穴ふさぎ）を取り付けます。



(図12)

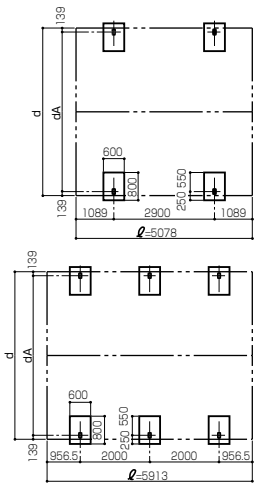
■M合掌の施工手順

1 基礎の施工

●柱埋込み位置を出し、柱基礎穴を掘り込みます。
※基礎構造については、基本タイプを参照してください。

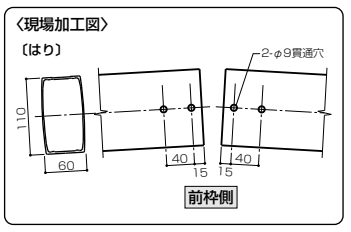
（単位:mm）

サイズ呼称	d	dA
24・24	4875	4597
27・27	5485	5207

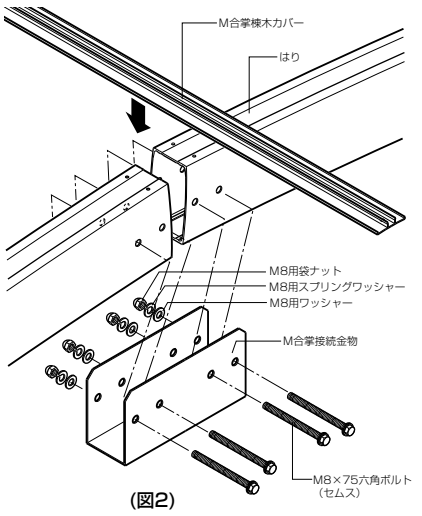


2 本体の組立て

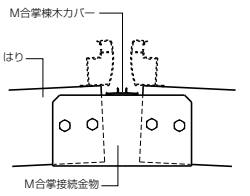
①はりの前枠側を現場加工します。(図1)
②柱・はりを組み立てて柱基礎穴に入れ、はりとはりをM合掌接続金物で接続します。(図2)
③M合掌棟木カバーをM合掌接続金物の上にのせた後、前枠・母屋・後枠・側枠を取り付けます。(図3)
④M合掌棟木・M合掌棟木キャップを取り付けます。(図4・5)
※M合掌部以外の組立ては、基本タイプを参照してください。



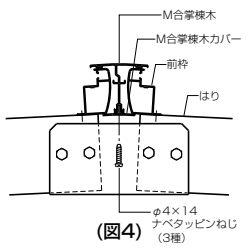
(図1)



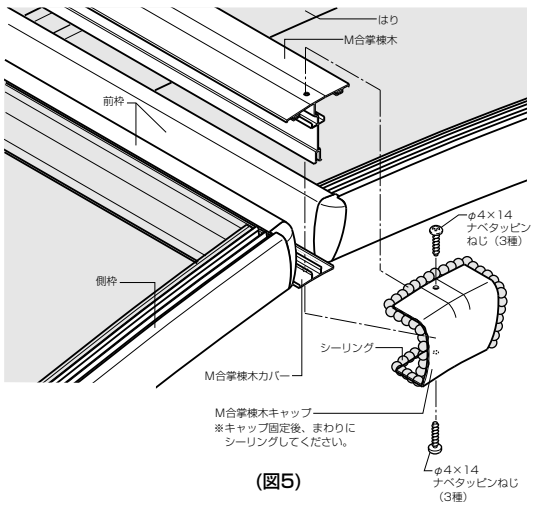
(図2)



(図3)



(図4)



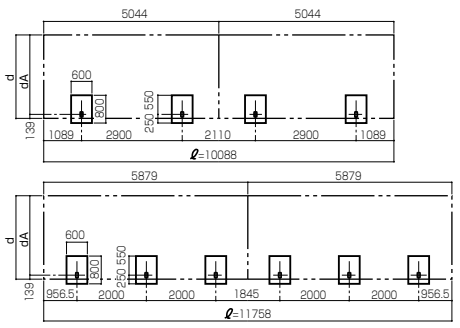
(図5)

■縦連棟の施工手順

1 基礎の施工

●柱埋込み位置を出し、柱基礎穴を掘り込みます。
※基礎構造については、基本タイプを参照してください。

●墨出し位置



（単位:mm）

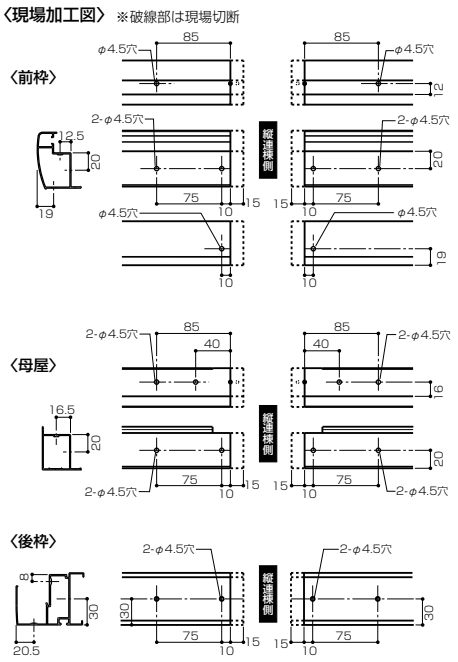
サイズ呼称	d	dA
24	2427	2288
27	2733	2594

2 本体の組立て

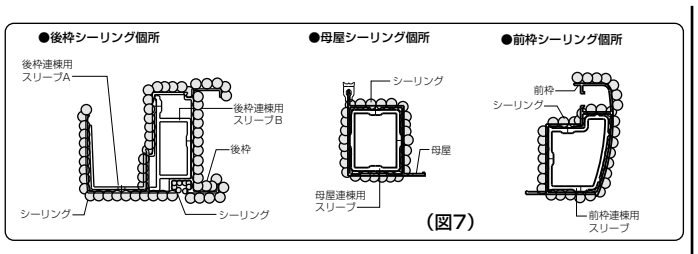
①前枠・母屋・後枠の縦連棟側を現場加工します。(図6)
②縦連棟部にシーリング材を充てんし、連棟用スリーブ・前枠・母屋・後枠を接続します。(図7・8)
※縦連棟部以外の組立ては、基本タイプを参照してください。

3 M合掌の縦連棟

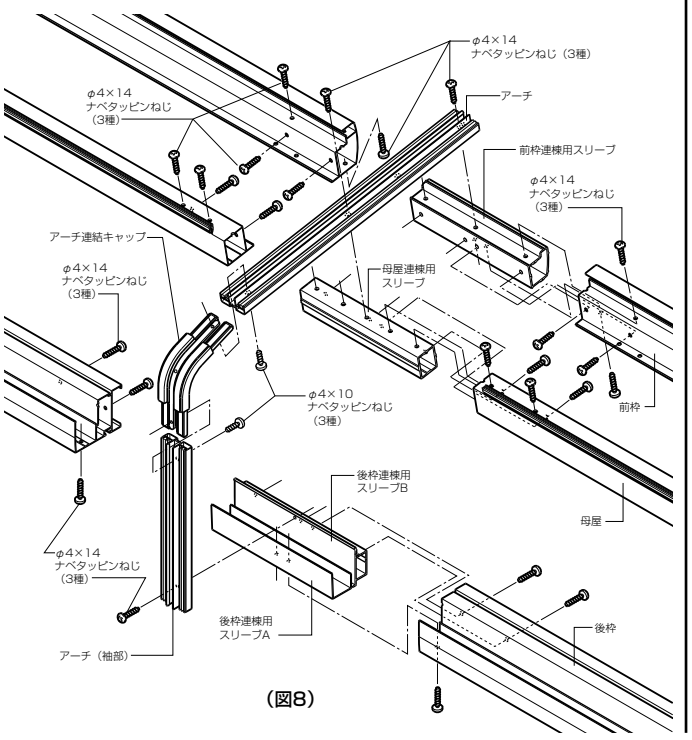
①M合掌棟木・M合掌棟木カバーの縦連棟側を現場加工します。(図9)
②M合掌棟木の縦連棟部にシーリングして接続します。(図10)



(図6)



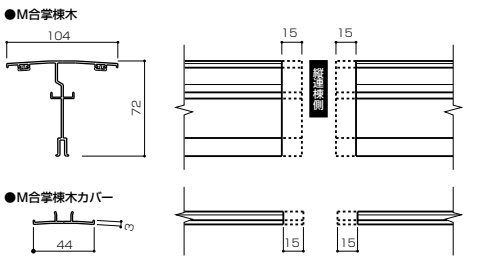
(図7)



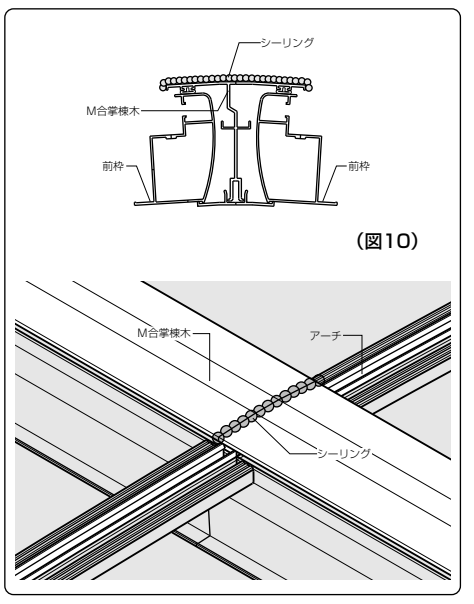
(図8)

■M合掌の縦連棟

〈現場加工図〉

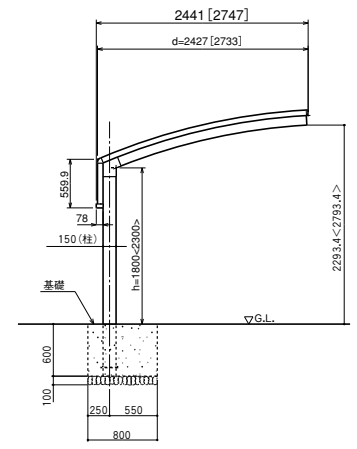


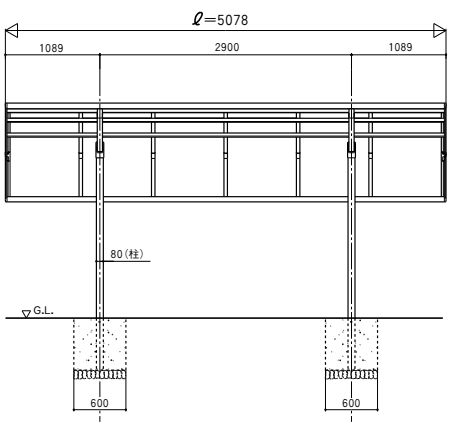
(図9)

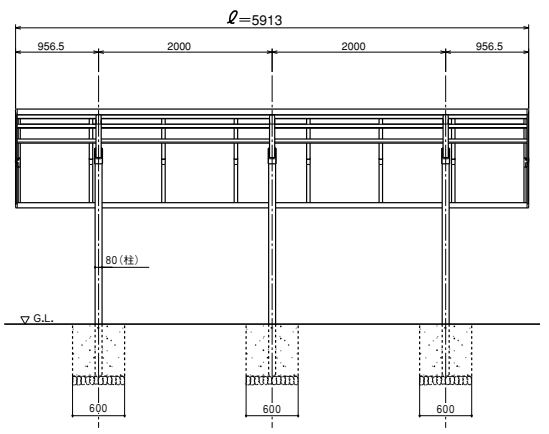
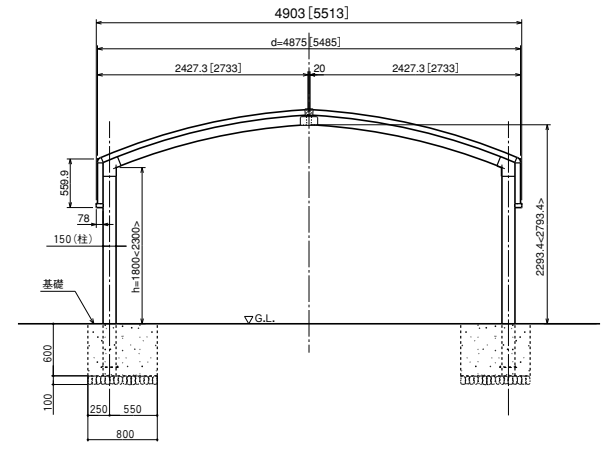
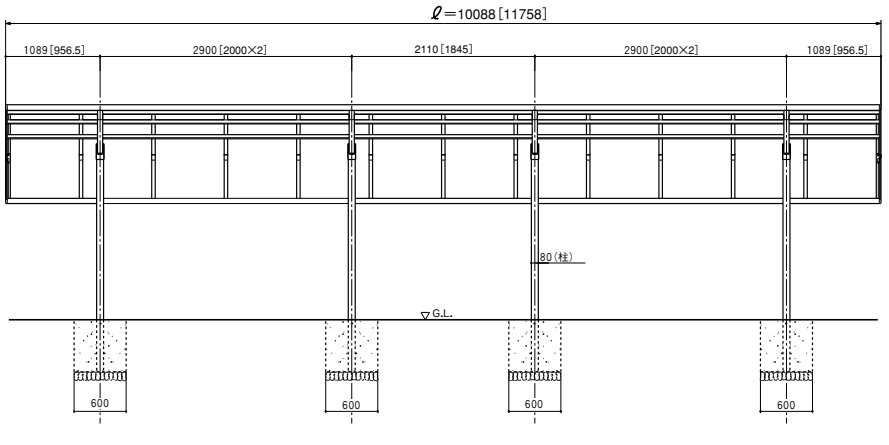
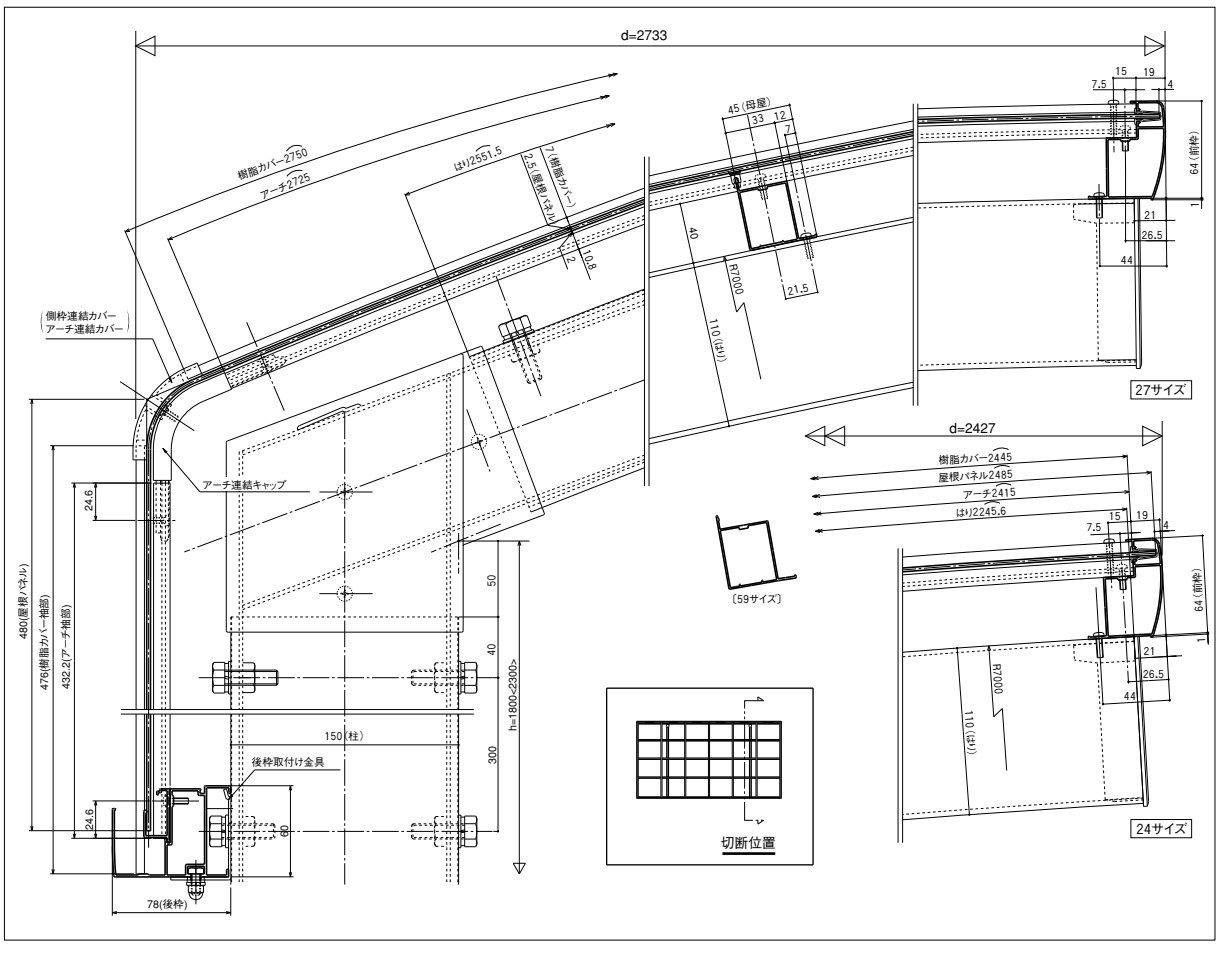


(図10)

■納まり参考図







※[ ]内はd=27サイズを示す。
※<>内はハイルーフ仕様を示す。